

日本雪氷学会北海道支部創立 30 周年記念式典報告

平成元年は、北海道支部が創設されて 30 周年目にあたる。そこで、これを記念する事業を行うことを企画し、事業の一環として、本年 6 月 13 日に 30 周年記念式典を開催した。昨年は雪氷学会にとっても 50 周年目の記念すべき年であり、引き続いて今年支部創立 30 周年を迎え、さまざまな意味で学会の歩みを振り返る良き機会であった。式典はまた将来への展望を明確に打ち立てる出発点でもある。過去を振り返り、将来を望むことが式典を行う主な目的であった。昨年来、支部幹事の間で検討を重ね、式典の意義や運営を企画したが、その基となったのは、雪氷学会が基礎研究と応用研究との接点に立脚していることである。基礎的な研究と実社会のさまざまな問題に対処する応用研究の 2 面性が雪氷学会の特徴であった。

30 年前の支部創立の経過を「雪氷 昭和 34 年」でたどってみると、雪氷学会の発展と北海道の開発に寄与するとの意気込みが読み取れる。振り返ってこの 30 年は、北海道支部にとっても、また日本雪氷学会にとっても変化の著しい年月であった。雪氷学を取り囲む状況も大きく変わって来た。この 30 年の間に、雪氷学は明らかに進展してきた。それにも増して、寒冷地域の生産活動や生活はその規模は拡大し、活発化してきた。寒さと積雪をもはや寒冷地域の宿命的な阻害因子ではなくなりつつある。このような変化・進展は北海道支部にとっても予想を超えるものであった。それは、当時雪氷研究者に科せられたテーマが「克雪」であったのに、昨今では「利雪」・「親雪」にまで広がったことから裏付けられる。こうした状況の変化を掌握し、次の 30 周年に向かって北海道支部の歩む方向を見極めるのが、これからの課題であろう。

記念式典は平成元年 6 月 13 日午後 3 時より、北海道大学学術交流会館小講堂にて開催された。例年通りの総会と研究発表会に引き続いての開催であった。支部福田正己幹事長の司会で、以下のよう

1. 開会の辞

2. 支部長挨拶

若濱 五郎

3. 来賓祝辞

日本雪氷学会長

東 晃

日本気象学会北海道支部長

黒沢真喜人

日本農業気象学会北海道支部長

堀口 郁夫

4. 祝電披露

5. 感謝状授与

6. 記念事業披露

7. 記念特別講演 「寒さの中の暮らし」

— 北欧の子供たち —

北海道教育大学教授

伊藤 隆一

8. 閉会の辞

5. の感謝状は支部の活動に貢献されてこられた方々に授与された。

北海道大学名誉教授 吉田 順五氏 (初代支部長)

北海道大学名誉教授 井上 力太氏 (初代幹事長)

国際基督教大学教授 東 晃氏 (昭和 50-51 年支部長)

北星学園大学教授 木下 誠一氏（昭和 52-59 年支部長）
北海学園大学教授 堂垣内尚弘氏（初代理事）
元北海道電力副社長 大橋 康次氏（理事本部顧問）

当日吉田、井上、堂垣内の諸氏はあいにくと出席願えなかったので、後ほど感謝状と記念品をお送りすることとなった。

6. の記念事業披露では、支部機関誌「北海道の雪氷」の特集号、そして記念出版予定の「雪氷調査法」の概要が紹介された。とくに「雪氷調査法」は多くの現場実務者からその出版を望む声が多かったので、30 周年を記念して応用分野への寄与となることが期待される。

7. の記念特別講演は、寒冷な環境での暮らしについて、とくにその文化的側面に関連した内容であった。雪氷についての科学的な視点とは、幾分趣きが異なるが、雪氷学の今日的な位置付けを行う多くのヒントが、与えられたものと思われた。講演をお願いした伊藤先生は、生活の場としての寒冷地域、北海道と北欧フィンランドを例にあげながら、寒さへの対応や創意といった文化面で比較された。寒さに順応させながら子育てを行う北欧の人々の生活には、同様の寒冷環境に暮らす我々が学ぶべき点が多いように見受けられた。120 名の出席者は、スライドを多く使い、またユーモアを交えた伊藤先生の講演に時間の経過を忘れて聞き入った。

記 念 式 典



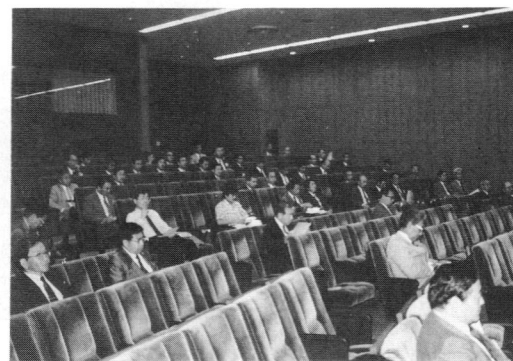
会 場 前 景



受 付

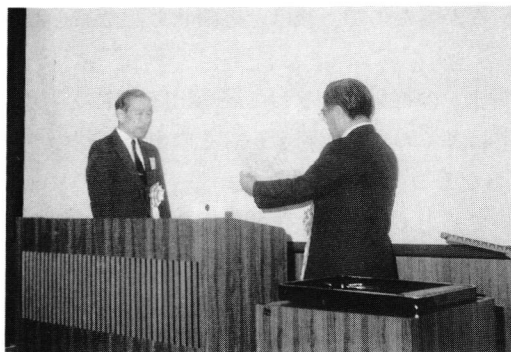


支部長挨拶

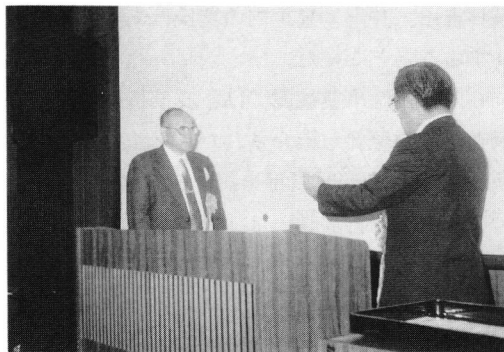


会場風景

感謝状授与



東 晃 氏



木下 誠一氏



大橋 康次氏

記念講演



熱演される伊藤隆一先生

日本雪氷学会北海道支部創立 30 周年記念祝賀会

平成元年 6 月 13 日、午後 5 時 30 分より支部創立 30 周年を祝う会が開催された。すでに同日には 30 周年記念式典が挙行され、30 周年の歩みを振り返り、これからの更なる進展を望む所存が明らかにされた。会場を北大学術交流会館からクラーク会館へ移して、祝賀会が開催された。当日は終日晴天で、参加者は鮮やかな新緑のキャンパスを歩いて会場へ移動した。会員の他に、関連する各界の方々、記念事業に協賛頂いた企業等の方々をお招きし、約 120 名が記念祝賀会に臨んだ。

クラーク会館の会場には、花を巧みに入れ込んだ氷柱が置かれ、雪氷学会らしい雰囲気を感じさせていた。山崎誠氏の司会により次の式次第で進行した。

- | | |
|-----------|-------------|
| 1. 支部長挨拶 | 若濱 五郎氏 |
| 2. 来賓の挨拶 | 紋別市長 金田 武氏 |
| 雪氷学会東北支部長 | 渡辺 善八氏 |
| 北信越支部長 | 中村 勉氏 |
| 3. 乾杯 | 雪氷学会長 東 晃氏 |
| 4. スピーチ | 木下 誠一氏 |
| | 大橋 康次氏 |
| 5. 閉会の乾杯 | 支部会員 小島 賢治氏 |

支部長からは、特に本事業に協賛頂いた企業等の方々への感謝の辞が述べられ、引続き今後とも支部への協賛をお願いする旨が述べられた。本祝賀会へわざわざおいで頂いた紋別市長の金田氏からは、寒冷な北海道の地方都市の活性化には、雪氷学の進展が欠かせないとの期待の言葉が述べられた。また来賓の各支部長は御両名とも、かつて北海道支部に所属されたことがあり、他の 2 支部に比べて長い歴史を持つ北海道支部への期待の言葉が寄せられた。乾杯のあと、全員親しく歓談したが NKK から寄贈された音の出る氷「エキサイス」のオンザロックには、感嘆の声が挙がっていた。雪氷学の研究成果が、思いもよらぬ分野で活用されていることを改めて知らされた感がある。

宴はたけなわで、歓談は尽きなかったが、予定の時間をはるかに超えて閉会の乾杯となり、全員別れを惜しみつつ、グラスを置いて閉会した。

祝 賀 会



若濱支部長挨拶



東雪氷学会長の乾杯



懇談中の大橋康次氏、堀口農業気象
学会道支部長、金田紋別市長（左から）



木下前支部長のスピーチ



